平成28年度 生活介護・施設入所支援 事業結果報告

社会福祉法人 清和会
障がい者支援施設
つ く し の 里

1．入所、生活介護の利用状況

【施設入所支援】

入所者数

性別	人数
男性	29名
女性	23名
合計	52名

＊年度内入退所は無し。

待機者		
男性　9名	女性　4名	合計　13名

重度障害支援加算対象者
37名（34名）

※（　　）内は平成27年度数

施設入所支援利用率

平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数（延べ日数）	1,560	1,612	1,560	1,612	1,612	1,560	1,612	1,530	1,612	1,612	1,508	1,612	1,584
外泊日数（延べ日数）	100	74	37	49	57	39	37	13	57	89	104	113	64.1
利用日数（延べ日数）	1,460	1,538	1,523	1,563	1,555	1,521	1,575	1,517	1,555	1,523	1,404	1,499	1,519
平均利用者数（1日）	48.7	49.6	50.8	50.4	50.2	50.7	50.8	50.6	50.1	49.1	48.4	48.4	49.8
利用率（当月）	97.3%	99.2%	101.5%	100.8%	100.3%	101.4%	101.6%	100.6%	99.3%	98.3%	101.6%	101.3%	100.3%
利用率（3ヶ月平均）	99.3%	99.2%	99.3%	100.5%	100.9%	100.9%	101.1%	100.6%	99.9%	99.4%	99.7%	100.4%	100.1%
平成27年度利用率（当月）	101.1%	99.3%	100.7%	101.0%	97.7%	98.9%	99.2%	101.1%	100.3%	98.3%	96.8%	96.7%	99.3%
平成27年度利用率（3ヶ月平均）	100.6%	100.5%	100.4%	100.3%	99.8%	99.2%	98.6%	101.1%	100.7%	99.9%	98.5%	97.3%	99.7%

【生活介護】

利用契約者数

性別	人数
男性	46名（47名）
女性	34名（33名）
合計	80名

※（　）内は、平成27年度

利用終了	
11月7日	男性1名

利用開始	
8月26日	女性1名

延長支援加算対象者
8名

※前年度変更なし

日中一時支援契約者数
20名

生活介護利用率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入所者利用人数（延べ日数）	1,022	1,162	1,120	1,162	1,159	1,115	1,176	1,107	1,150	1,163	1,018	1,172	1,127
在宅者利用人数（延べ日数）	424	567	527	556	536	523	556	518	555	559	480	552	529
合計（延べ日数）	1,446	1,729	1,647	1,718	1,695	1,638	1,732	1,625	1,705	1,722	1,498	1,724	1,657
日中一時への調整日数	16	1	39	35	30	39	41	38	2	4	21	20	24
開所日数	21	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	22.3
平均利用者数（1日）	68.9	75.2	74.9	74.7	73.7	74.5	75.3	73.9	74.1	74.9	74.9	75.0	74.1
利用率（当月）	114.8%	125.3%	124.8%	124.5%	122.8%	124.1%	125.5%	123.1%	123.6%	124.8%	124.8%	124.9%	123.6%
利用率（3ヶ月平均）	120.9%	121.6%	121.6%	124.9%	124.0%	123.8%	124.1%	124.2%	124.1%	123.8%	124.4%	124.8%	123.5%
平成27年度利用率（当月）	124.8%	124.9%	125.0%	124.7%	119.1%	123.3%	124.1%	125.3%	124.3%	123.6%	120.6%	128.2%	124.0%
平成27年度利用率（3ヶ月平均）	124.2%	124.8%	124.9%	124.9%	122.9%	122.3%	122.1%	124.2%	124.6%	124.4%	122.8%	124.2%	123.9%

利用者の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設入所	52名	52名	52名	52名	52名	52名	52名	52名	52名	52名	52名	52名
生活介護	80名	80名	80名	80名	81名	81名	81名	81名	80名	80名	80名	80名
GH	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名	15名

２．重点課題

重点課題	項目	結果報告
利用者満足度の向上	第三者評価結果に伴うサービスの質の向上(継続)	各サービス向上委員会で年間の活動予定を組み、各委員の目標達成に向けた取組を進めてきた。特にイベント委員会では、利用者さんが参加できるイベントを実施するという目標のもと、夏にはかき氷会、冬には焼き芋会、更には仮装大会等、季節感を感じながら、利用者さんが参加し、楽しむことができる取組を実施することが出来た。委員会活動を総括すると、活発な取り組みが出来た委員会は２委員会。一定の活動が出来たのが７委員会。取り組みが不十分であったものが５委員会となり、全体としては不十分な結果となった。また、これに加え、委員会に関連する第三者評価の評価項目における「ａ」評価の割合も昨年より減少した。 サービスの質の向上についての継続した取り組みが今後も必要であるため、委員会へ目指してほしい方向性を明確にし、年間予定に沿った確実な取組が実施できるよう確認を徹底していく。また、メンバーを入替ることで、活性化を図りたい。（別紙添付書類１：サービス向上委員会実施状況）
	虐待防止	職場内研修を4月と7月に実施。また、実習生や委託業者（日清医療食品、シルバー人材センター）に対して支援状況がどのように見えているか、第三者の意見を活かすことが出来るよう、アンケート調査を実施した。良い意見が大半ではあったが、不適切な職員の言動を目にしたという意見もいくつかあった。職員一人ひとりに自分のこととして振り返り、原因及び改善案を協議し、統一目標を設定して利用者支援にあたった。改善が必要だと思われた意見の中で、虐待に関係する意見６件。この内、４件は「良くなった」と回答した方が８～９割あり、一定の成果が得られたが、２件については、５～６割に留まったため、この結果を職員へフィードバックし、継続した取り組みを行っていく。（別紙添付書類２：アンケート調査結果）
支援区分変更への対応		該当者の認定調査票の作成を行い、サブリーダー以上で調査に対応した。今年度予定していた63名の聴き取り調査は終了し、すべての方が支給決定済。現状維持43名、区分が上がった利用者16名、区分が下がった利用者は4名であった。目標としていた区分よりもより実態に即した結果を得る事が出来た。これにより、平成27年度平均支援区分5.31から平成28年度は5.39という結果となり、益々利用者の重度化が進んでいる。（別紙添付書類３：障害支援区分支給決定結果表）
人材育成	職員研修	要綱と職能基準書等を整備し、学習計画シート及び評価シートの記入を基に職場研修をスタートした。人事考課の面談において、各シートを活用することで身についているスキルと求められるスキルを互いに確認し、今後どのような事に対してウエイトをおいていかなければならないのか明確にすることが出来た。今後は施設や個人でみた研修ニーズの高い職員に力を入れたり、計画的な研修ができるようにしたい。（別紙添付書類４：学習計画シート及び評価シート、別紙添付書類５：外部研修参加状況表）

重点課題	項目	結果報告
事故・感染症予防	事故防止 感染症予防	事故件数は、昨年度316件から今年度は198件と4割弱減少することが出来た。これは、原因不明の紫斑の報告が上がってくる件数が減少したためとも考えられる。また、事故を要因別でみると介護事故は変化なし。夜間と日中の発生割合は、夜間６割、日中４割と昨年度と変化なし。事故内容では、打撲が増え、暴力、器物破損などは減った。事故場所では、作業棟が増え、ふれあいルーム、食堂は変化なし。集会室、療育室が減少した。昨年度の課題に事故事例の周知が不十分であることがあがったため、今年度は、調整会議で当月分の事故内容の周知と対策の検討を行った。又、各班で事故防止目標を掲げ、1班、3班、4班が目標を達成したことで、減少できたのではないかと考える。 感染症も拡大する事が無かった。定期外の内科の通院も５２件であり昨年度の１２８件から半減した。サービス向上委員会(感染症)で周知対応された手袋着用(食事・歯磨き)を徹底した事で、感染源を媒介することがなかったのではないかと考える。今年度の対応は、次年度も継続できるようにし、更なる感染症予防、拡大防止に力を入れたい。（別紙添付書類６：事故内容分析表）
業務改善		今年度の主な変更点は、職員数減少に伴い夜勤体制を4名から3名へ。送迎をシルバー人材センターへ委託。車輌管理業務のうち洗車を業者委託。支援計画（原案）はサビ管で作成。また、休憩時間の見直しも実施。その他、書類の削減、小遣い支出方法の変更、時間外申請の見直しも実施した。当初、勤務形態に応じ、勤務時間内で書類業務の時間を割り当てることになっていたが、人員の補充が目標に達しなかったこととで導入出来ない結果となった。班内で時間を調整することも出来ていたが、班による偏りもあったため、協力体制と平等化をはかるためにもグループ体制をとり改善を図りたい。 夜勤体制については、4名体制の方がよいとの意見も多いが、現職員数では3名体制を継続せざるを得ない状況である。シルバー人材センターへ委託した送迎については、個人ごとの受け持ちルートも増え、運転手と利用者さんの関係も良好にある。情報交換会において保護者との意見交換の場を設け、現状の説明と意見の収集を行い、ニーズに即した改善を行った。 今年度実施した改善は、定着しているため、今後も必要な見直しと改善を継続していく。

３．施設設備

設備整備

単位：千円

項	工　事　名	予　　算	執 行 額	予算残額	備　　考
1	マイクロバス	6,930	6,929	1	共同募金会より1,800千円/下取り価格998千円
2	消防設備改修	270	265	5	
3	冷凍・冷蔵庫	540	538	2	
4	冷凍庫	310	309	1	
5	館外ベンチ・館内ロビーソファ	950	532	418	
6	防犯カメラ入れ替え	2,236	2,236	0	5年ﾘｰｽ（月額37千円）
7	ふれあいルームソファー一式	1,330	903	427	
8	ポータブルワイヤレスアンプ	250	245	5	
9	ガス給湯器(洗濯場)	150	145	5	
10	トラック	3,690	3,677	13	下取り価格112千円
11	喫煙ブース	685	685	0	
12	中庭ステージ	3,300	3,300	0	
	合　計　①	20,641	19,764	877	

修繕

単位：千円

項	工　事　名	予　　算	執 行 額	予算残額	備　　考
1	椅子・テーブル	320	256	64	
2	LED仕様変更	3,000	2,548	452	
	合　計　②	3,320	2,804	516	

熊本地震に伴う修繕・改修・購入物品関連

単位：千円

項	工　事　名	予　　算	執 行 額	予算残額	備　　考
1	地震に係る修繕費	5,940	3,997	1,943	
	アスファルト補修工事		799		
	貯水槽他撤去費用		441		
	石碑移設工事		49		
	通所棟補修		2,648		日本財団より助成金2,640千円
	情操棟電話機修理		60		
2	水道管工事	3,590	3,590	0	国庫補助金2,990千円（補助率5/6）
3	石垣補修工事	1,040	1,035	5	
4	廃棄処理	153	153	0	
5	その他、固定資産および備品等	630	621	9	
6	電気温水器	300	291	9	
	合　計　③	11,653	9,687	23	

合計（①+②+③）	35,614	32,255	1,416

4．支援部門

生活介護班１班

①疾病予防と早期発見に向けた健康管理の徹底。

1日3回の検温を行い体調不良と思われるような症状が出た際は、その都度、医務やサビ管に連絡し、早期の通院や静養などの処置を図った。年々利用者の方の高齢化も進んでおり、日中の気温差や衣類の着合わせなど些細な事で体調を崩しやすくなっているため、衣類の調整やうがい・手洗いの徹底、活動場所の掃除や汚染箇所の消毒拭きなどを徹底した事で静養回数を減少させる事が出来た（表１－①）。また、緊急通院も昨年度より減少した（表１－②）。この内、体調不良により静養に至ったケースは昨年度と比較しても大幅に減少した（27年度11件、28年度3件）。入院は、表１－③の通りであるが、病状の内容から長期間の入院が増えてきている。29年度も継続した健康管理を行っていきたい。

静養状況（入所のみ）　【表１－①】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
H27	4	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3	0	10

緊急通院状況(定期受診以外、入所のみ)　【表１－②】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28	1	0	1	0	0	1	0	1	3	0	1	0	8
H27	6	0	2	2	0	1	0	0	0	1	4	0	16

※生活介護利用中の在宅者の緊急通院1件

入院状況（入所のみ、延べ人数）　【表１－③】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	8
H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3

②個々の生活能力に応じた支援を行う。

1年間を通じて各個人の支援項目から生活介護の時間帯に取り組めることを重点取組課題と設定し実施した。
実施状況は、毎月のケース会議にて全員で確認し、目標達成に向けた取り組み内容を協議。半期で支援内容の見直しを図り、少しでも目標達成出来るよう努めた。

結果、ほぼ達成もしくは達成した方が半数。一方でマンツーマンの支援が必要な方への個別支援については、十分とはいえない部分も見られた。目標の設定の仕方をさらに細かくし、準備や声掛けで行なえる目標設定にする必要があった。

今後も利用者の方の残存能力や活動時の環境面、職員のスキルなど様々な側面からアプローチを行い、一人ひとりの利用者の方がその目標に向けて日々の活動に取り組んで頂ける様に努めていきたい。

③ 季節感を味わい楽しく生活ができるようレクリエーションを行う。

レクリエーションでは、風船バレー、ペタンクや中庭運動を実施。季節行事の七夕、ハロウィン、参拝や雛祭りなど、行事に合わせた装飾やお菓子を準備し、季節に合わせたレクリエーションや季節行事を実施することができた。

また日々の活動の中では、各個人に応じた活動(塗り絵・ブロック・ピン刺し・コイン入れ・キャッチボール)や、強歩・腹筋・スクワット・ストレッチ等、運動メニューにも力を入れることができた。

外出では、班全体外出、班個別外出、月1回のドライブを実施。ドライブ外出では、職員付添いのもと嗜好品等の買い物を行ったり、班個別外出では食事、カフェやドライブなど利用者さんの希望や特性に応じて提供する事で気分転換を図る事ができた。

④ 事故防止を図る。

H28年度事故件数、要因別件数、内容別件数と平成27年度との比較は（表１－④～⑥）

事故件数は、昨年度と比較すると大幅に減少する事が出来た。

事故件数を減少出来た要因としては、毎月のケース会議にて昨年度の事故報告書を参照し、班職員全員が振り返りを行い、事故の再確認を行ったことと、環境面の配慮として、2班との合同活動を極力少なくし、ふれあいルーム内が混雑する事を避けた事が大きかったと思われる。

しかし、てんかん発作のある利用者さんが椅子に正座している事に気付かず、発作により転倒。職員が事前に足を下ろす等の対応が不足していたり、歯磨き誘導時に歩行が不安定な方が前傾姿勢となり転倒。身体の支えが不十分であったなど、まだまだ、細かな部分での気付きや危険予測が十分でない現状は見られた。

次年度も、同様の事故を繰り返さないようにケース会議等を通して、利用者の方の配慮すべき点を検討していき、起こった事故への早期対応、また、起こるかもしれない事故への事前の対応を実施して行く。

事故件数 【表１－④】

H28	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	1	0	0	1	0	1	1	1	3	0	0	0	8
施設入所	1	0	0	1	0	2	1	1	2	0	1	2	11
合計	2	0	0	2	0	3	2	2	5	0	1	2	19
H27	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	7	0	1	3	2	1	2	1	1	0	0	0	18
施設入所	2	2	0	3	0	3	3	0	2	1	0	0	16
合計	9	2	1	6	2	4	5	1	3	1	0	0	34

要因別件数 【表１－⑤】

	H28	H27
配慮不足	6	12
介護事故	7	10
本人	1	7
環境	3	1
不明	1	4
その他	1	0
合計	19	34

内容別件数 【表１－⑥】

	H28	H27
すり傷	4	3
紫斑	0	2
打撲	7	7
暴力	1	9
切り傷	0	5
器物破損	1	1
その他	6	7
合計	19	34

生活介護班２班

①疾病予防と早期発見に向けた健康管理の徹底。

早期発見への対応として、検温、身体チェック、食事や排泄の状況、体重の変化等、定期的に健康状態を確認し、早めの対応を実施した。

静養者、緊急通院者、入院ともに昨年度より減少することができた。（表２－①～③）インフルエンザなどの感染症が流行しないように、口腔衛生への対応や、体調不良者が出た時の消毒拭きのほか、衣類の調整や室内の温度管理などに取り組んだ結果が減少につながった。感染症対策の他に高齢よる疾病や持病への対応も重要なポイントであり、28年度の通院・静養は増加することはなかったが、29年度以降もますます重要性を増すと思われるため、日常的な管理を継続していきたい。

平成29年度も利用者さんが心身ともに安定して日常生活を過ごしていけるよう、個々に応じた体調管理及び、疾病の予防を図っていくと共に、個々の能力に応じた運動・雰囲気づくりを通し心身の健康維持につなげていく。

静養状況（入所のみ） 【表２－①】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28	0	2	1	2	1	2	0	3	2	0	2	1	16
H27	4	5	5	0	1	1	3	1	4	1	9	4	38

緊急通院状況 【表２－②】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28	0	2	2	5	3	6	5	5	7	2	2	1	40
H27	7	8	6	5	1	7	7	1	8	3	15	9	77

入院状況（入所）　【表２－③】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28	2	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6
H27	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3	2	8

②個々の生活能力に応じた支援を行う。

個別支援計画に基づき、班活動の中で取り組んでいく活動を設定し実施した。上半期は個人により偏りが見られたため、班全体で共有し直したことで、下半期は偏りのない取り組みができた。

個人の生活能力や活動に対する目標は、年間を通して、結果が良かった人と不十分だった人が半々であった。利用者個人に合った目標や支援内容を再度見直し、その方の能力に応じた目標設定を行っていきながら、利用者さんそれぞれが目標にっ向かって活動に取り組めれるよう支援していく。

③ 季節感を味わい楽しく生活ができるようレクリエーションを行う。

日光浴や運動、気分転換を図ることを目標としていたが、室内活動が中心となってしまった。室内活動で必ずサンバおてもやん体操を行い、声を出したり、体を動かし活気をもって楽しく取り組むことができた。体力・筋力の維持のため、個人メニューを設定し、歩行訓練、腹筋、足上げなどを重点的に行ってきたが、達成は半分ほどであった。

レクリエーションは、毎月実施する予定にしていたが、2回の実施に留まり、計画性に欠けていた。平成29年度は、計画性を持ってレクリエーション活動に力を入れていきたい。

季節行事では、行事に合わせた装飾やお菓子を準備したり、バレンタイン・ホワイトデーは1班とプレゼントを贈り合ったりし、楽しく過ごすことができた。

ドライブ外出は月1回の予定でほぼ予定通りに実施できた。ドライブへ行くと利用者さんが大変喜ばれるため、回数を増やしたいが、介助度の重い方、高齢者の事を考えると、均一に回数を増やすことは難しい現状にあるため、元気な方を対象にドライブ回数が増やせるようにしていきたい。

④ 事故防止を図る。

今年度の目標であった介護事故の減少には至らなかった。介護事故の内訳は、移乗時での事故が多く、介護を行う上での注意すべき点が周知されておらず、介護事故から紫斑や転倒に繋がってしまった。介護が中心となる班である為、次年度は職員個々のスキルアップを目指していくと共に利用者の方の高齢化による体力の減少、認知の低下なども踏まえたうえで、より安全な介護の仕方を周知したり、より良い支援方法を検討しあって、介護力の向上につなげていく。

事故報告　【表２－④】

H28	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	4	4	3	6	3	4	2	2	4	1	2	1	36
施設入所	1	1	6	2	4	4	1	3	1	0	0	2	25
合計	5	5	9	8	7	8	3	5	5	1	2	3	61
H27	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	21	10	13	8	6	10	5	0	3	11	2	0	89
施設入所	5	0	4	5	1	0	0	4	3	2	1	0	25
合計	26	10	17	13	7	10	5	4	6	13	3	0	114

事故要因　【表２－⑤】

	H28	H27
配慮不足	15	19
介護事故	23	19
本人	1	4
環境	10	2
不明	12	70
合計	61	114

事故内容　【表２－⑥】

	H28	H27
擦り傷	6	17
紫斑	13	63
打撲	31	12
その他（転倒）		12
その他	15	22
合計	65	126

※事故内容は重複するため、事故件数とは一致しない。

生活介護班３班

① 行動上の問題点の頻度・強度の減少を目指す。

頻度や強度が著しく、支援が困難であった2件の事例を取り上げ、問題点の改善に努めてきた。まずは、なぜそのような行為が表出するのか要因を考え、何かしらのサインとして捉えることが出来ないか仮説を立てること、これまでの支援がマッチしていたのかを見直し、新たな改善案に取り組んできた。

一つの事例は、場所を問わず激しく衣類を脱ぎ捨て、着衣を酷く拒み、仮に着れたとしても同じことを繰り返し続けるという事例であったが、精神面にばかり着目しがちであったところに、便意や尿意との関係がないかと仮説し、便の滞りを減らすことと、本人と支援者双方が脱衣行為から視点を切り替えられるような支援（環境を変える・話題を変える・トイレへ向かう等）を実施してきた。すべてが上手くいくことばかりではないが、幾分か切り替えが出来るようになり、減少につなげることが出来てきた。

もう一つの事例は、精神面の起伏が激しく、物を壊したり、自傷行為が増えてきたことに対する取組である。熊本地震による恐怖感や環境の変化も加わり、一時的にパニックを起こしたりした。それに加え、家族旅行で飛行機に乗って怖かったことを引きずり、不安定になることが多くなった。職員との関わりを強化し、不安を煽るような話題には触れず、穏やかな気持ちを保つことが出来るよう支援した。併せて医療の観点からも服薬の調整を行い、本人が楽しみとしている定期的な外泊でも、状態の変化が確認できるようご家族との連携も図った。少しずつではあるが、落ち着きを取り戻してきたようで、睡眠の乱れをはじめ自傷行為も少なくなってきた。

いずれの事例からも、本人と密に関わる時間を設けることで、利用者の表情が柔らかくなったり、沢山関わりを持った日の夜に熟睡したりする姿を見ると安心感を与えることが出来たのだと実感できた。過ごし方や人を含めた環境の影響が、精神面を左右する大きな要素であること、行動障害と食事・睡眠・排泄が相互に影響し合うことを改めて確認出来た。

今後も表情や言葉だけではなく、不安定な行動も本人から発せられる雰囲気も大切なサインとして捉えた支援を行ない、生活の基本となる食事・睡眠・排泄を整えること、それに加え日中活動の充実を図っていくことで精神面の安定、行動障害の軽減に繋げていく。

② 個別支援を充実させ、能力の向上を目指す。

各利用者の達成度は平均して7割程度。各目標については、個人に応じて見直しを行なってきた。しかしながら、スモールステップとしての目標にしては設定が大きく、スムーズにステップアップすることができなかった利用者もいた。次年度の支援計画に対するスモールステップの設定は、3ヶ月程度で達成が望める具体的な目標を立て、確実なステップに結び付けることができるようにする。

手指活動においては、皆が机に向かうことで活動する環境を作ることができ、集中力のアップに繋がった。各利用者が活動に取り組んでいる様子をみて自分も席についたり、個々によい効果をもたらし、相乗効果を得られた。活動をしていく中で「刺激の軽減」が重要となり、人が手を叩く音や特定の人の声を不快に感じる利用者に対しては一定の距離を保ち、活動の空間に区切りをつけた対応を図った。また、特定の人が近付くことを不快に感じる利用者に対しては、職員の立ち位置に配慮し、できる限り接触がないようにしてきたが、刺激の軽減にはつながらなかった。

次年度は、まず療育室内の模様替えを行い、それぞれのスペース作りを行う。その後、個人に応じた環境作りを目指す。

③ 事故防止を図る。

昨年度から引き続き療育室内での事故の減少に加え、昨年度に多かった移動場面での事故防止に取り組んできた。

まず、移動の場面では、移動する前に職員間で誰に付き添うかを声掛け し合い、行動面の配慮を行なったことで、移動場面での事故は発生しなかった。一定期間を振り返り評価してみると如何に基本的な事を当たり前に行う事が重要であるか気づくことが出来た。

療育室での事故は、過去2年間と比較すると、今年度は16回、H27は34回、H26は38回となり、申し合わせた取組により年々減少させることが出来ている。（表３－①、②）事故が起こった場合は、その日にいる職員で原因を考え、その場にいなかった班職員へも注意点を周知した。併せて、事故が起きた時と同じような場面で、「このような事があったため、気を付けましょう」、「○○さんは△△をお願いします」等、具体的な注意喚起や役割分担を行い、予防に努めてきたことが、回数の減少に繋がったものと考える。しかし、依然として療育室内の事故は暴力によるものであり、事故の大半は職員の配慮不足によるものと判断でき、課題も残る。暴力の対象となる利用者はある程度限定されているため、噛み付きや人を叩く等の特性がある利用者と他利用者が接する場面において、一定の距離をとったり、環境を変える等、即座に介入できる体勢をとっておくようにする。

その他、事故の発生件数を見ると、約4割が日中活動時間帯以外で起こっている。食堂や集会室等、人が集まる場所での事故が多い。食堂での事故防止のため食事の席を変更し壁際で両隣に利用者がいない環境にしたことは、有効であった。館内での移動の場面等、噛み付きや叩く特性がある利用者の周辺に職員を配置し、その利用者と他利用者との距離を調整し、すれ違う際に叩いたり、誰かに近寄ってチョッカイを出したりする利用者にも配慮するよう周知をしたが、まだまだ職員間の意識のバラつきもある為、状況確認と声かけを継続していく。

事故の事例で、利用者の他傷行為を職員が防御する際に、利用者を傷付けてしまうという事故が上半期に2件発生したが、職員への注意喚起を行い、下期は発生しなかった。しかし、職員が楽しくコミュニケーションを図ろうとした結果、相手を傷付けてしまったり、興奮を助長して粗暴行為を招いたりする場面もあり、相手の状態に応じた関わり方を行うこと、人権・虐待の観点からも適切な関わりを持つよう、研修や事例検討を促進しスキルを高めていく。

月別回数 【表３－①】

総合	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H26			22	6	8	15	11	6	9	12	18	5	112
H27	9	4	7	23	6	11	7	4	6	8	5	6	96
H28	1	3	8	6	3	4	7	5	4	1	6	5	53

【表３－②】

療育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H26			7	2	6	3	5	2	0	7	6	0	38
H27	3	0	2	9	3	6	2	2	0	3	2	2	34
H28	0	0	0	4	1	0	1	5	0	0	4	1	16

生活介護班４班

① 体力の維持・強化による機能低下の防止を図る。

体力の維持・強化に対する取組として、館内外の強歩に重点を置いてきた。Ａグループ・Ｂグループ共に個人目標として設定していた強歩距離数を超える事が出来、十分に取り組めたことが言える。（表４－①）利用者個人でみても、ほぼ全員が目標値をクリアすることが出来ており、出来ていない方に関しても、自転車こぎやストレッチ等、本項に対する取組は実施することが出来た。静養回数も昨年度の42回に対し、今年度は14回と7割近くを減らすことが出来、結果としても十分であったと評価できる。但し、静養者の内訳をみると、同じ利用者さんが複数回静養しているため、個人に合わせた疾病対策がより重要となってくる。

強歩実績（一人あたり） 【表４－①】

	目標距離	平均距離	達成率
Ａグループ	240,000ｍ	275,988ｍ	115%
Ｂグループ	180,000ｍ	205,666ｍ	114%

② 日常生活に必要な能力の維持・向上を目指す。

週3回、館内外の清掃や持ち物の整理等を中心に取り組んできた。各グループの目標に即し、利用者さん個人の課題に合わせた支援が実施できたことで、個人が必要とする支援をより明確にさせることが出来た。例えば、掃除道具の準備や片付けが出来るようになったり、掃除を続けることが出来るようになり、能力を向上させることができたと評価できる方もいたが、掃除に取り組むことへの意識が薄く、定着に至るまで更に継続した支援が必要な方、新たな課題設定が必要となったきた方等、個人に応じた具体的な結果を得ることが出来たため、この結果を踏まえ次年度への取組に活かしていく。

③ 社会資源を活用した社会性・経験領域の拡大を目指す。

社会性と経験領域の拡大を目指すために、担当外出やグループ外出、毎月2回程のドライブ外出を通じ、日用品の買い物や食事、体験や観賞を目的とした外出を担当外出、グループ外出、ドライブ等で実施した。具体的には嗜好に応じて選択する事、支払いに携わる事、利用に際してのマナー等、社会性を養うためのポイントとして着目してきた。また、地域の小学生やボランティアの方と交流する機会もあり、社会資源の活用のひとつと捉えれば、ふれあいを持つことで社会性や経験につながったと感じる。当然、その成果は個人によって様々であるが、経験ということ観点では積極的な関わりを持つことができた。

※事故への対応について

昨年度と比較し、生活介護時間帯の事故30%減少を目標とし、32%減少する事が出来た。但し、入所の時間帯で見ると増加という結果となった。昨年度は転倒が多く挙がっていたが、情操棟の出入り時に職員が付き添う事で、転倒は減少した。（表４－②～④）上期は行動障害の特性から特定の利用者さんの事故が多かったが、支援内容を見直し、情報の共有を図る等支援の方向性が示されたことにより下期は減少させる事が出来た。しかし、回数だけで見れば減少したが、興奮時にガラスや人へ頭突きをするという表現には変化がなく、被害を受けた者が怪我をしたり、割れたガラスにより自身の左腕を裂傷するという大きな事故もあった。情操棟のガラスは強化ガラスに入れ替え割れにくような改善を図ったが、壁や鏡等が対象となるケースもある為、安定した状態を確保することで、事故防止につなげていきたい。

１．事故発生件数　【表４－②】

	H28	H27
生活介護	23	34
施設入所支援	32	26
合計	55	60

２．場所別件数　【表４－③】

場所	H28	H27
館外	1	2
情操棟	8	3
集会室	3	3
廊下	0	3
居室	1	4
トイレ・洗面台	1	4
食堂	3	3
その他（不明）	6	12
計	23	34

※ 生活介護

３．内容別件数　【表４－④】

	H28	H27
紫斑	1	5
転倒・擦り傷	5	12
切り傷・裂傷	2	2
利用者間暴力	10	8
器物破損	5	3
服薬ミス	0	1
その他	0	3
計	23	34

※ 生活介護

生活介護班５班

①　メリハリのある生活（時間・ルール等）を送る中で、働く喜びを味わう。

作業開始時間に遅れることが無いよう、出勤や作業状況のチェックを実施した。遅刻回数が全体で上期が58回に対し、下期が84回と増加。また、不安定な状態で作業に支障をきたした回数も、全体で上期140回に対して下期が199回と同様に増加した。上期の回数より下期に減少させることを目標としてきたため、未達成となった。

いずれの回数も特定の利用者で過半数をしめている。特定される利用者さんの精神面の安定と時間に遅れないような取組と本人の理解が伴えば、より円滑な活動が出来たと思われる。活動前の不穏の解消や作業前の席の配置、段取りについて、より一貫した視点と支援が必要であったと課題が残る。

利用者の意識改善を図る為に下期は、毎月工賃支給日前に出勤一覧表を貼り出し、利用者への説明とふりかえりを行った。回数が目に見えたり、人と比べることで、それぞれが反省したり考える機会になった。